

科目名	福祉社会開発研究方法論特講	2 単位
担当者	末盛 慶	
テーマ	研究を行う上で必要となる調査方法について理解を深める。	
科目のねらい	<p>&lt;キーワード&gt; 科学 研究方法 質的方法 量的方法 混合研究法</p> <p>&lt;内容の要約&gt;</p> <p>本講義では、研究を行う上で必要となる研究方法を学ぶ。具体的には、質的方法、量的方法、混合研究法を扱う。質的方法に関しては、質的方法の特徴、質的研究における研究課題の定め方、データ収集の仕方、質的データの分析方法等について解説する。量的方法に関しては、仮説の作成、質問紙の作り方、対象者の抽出方法、調査の実施方法、データの作成と多変量解析について学びます。混合研究法に関しては、混合研究法の定義、種類、研究の進め方、注意点等について説明を行います。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <p>科学の歴史と現状を理解する。質的方法を理解する。量的方法を理解する。混合研究法を理解する。</p>	
授業の進め方	<p>本科目は<b>オンデマンド授業になります。ディスカッションはありません。</b></p> <p>「nfu.jp」→「スタディ」から受講して下さい。</p> <p>各回のオンデマンド授業を視聴し、質問があれば掲示板に書き込んでください。進行の目安は、各回2週間程度とします。</p> <p>*動画視聴のみのオンデマンド科目のため、各回の講義日程はあくまでも目安です</p> <p>第1回 5月04日～ 科学とは何か：その歴史と現在</p> <p>第2回 5月18日～ 質的方法の概要</p> <p>第3回 6月01日～ 質的データの取り方</p> <p>第4回 6月15日～ 質的データの分析Ⅰ：グラウンデッド・セオリー・アプローチ</p> <p>第5回 6月29日～ 質的データの分析Ⅱ：修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ</p> <p>第6回 7月13日～ 質的データの分析Ⅲ：参与観察法・エスノグラフィー</p> <p>第7回 7月27日～ 質的データ分析Ⅳ：ケーススタディ</p> <p>第8回 8月24日～ 量的方法の概要：仮説の設定</p> <p>第9回 9月07日～ 質問紙の作成と配布の方法</p> <p>第10回 9月21日～ 質問紙の配布とデータ入力</p> <p>第11回 10月05日～ 関連を検討する：単純集計とクロス集計</p> <p>第12回 10月19日～ 統計的検定</p> <p>第13回 11月02日～ 多変量解析Ⅰ：検定・分散分析・相関分析・回帰分析</p> <p>第14回 11月16日～ 多変量解析Ⅱ：因子分析・信頼性分析</p> <p>第15回 11月30日～ 混合研究法</p> <p>課題レポート提出期限：2027年1月22日 [金]</p> <p>*提出方法やレポートの詳細については、nfu.jpのスタディ上でご確認ください</p>	
事前学習の内容・学習上の注意	<p>質的研究に関してはリアンプトン（2023）、量的研究に関してはボーンシュテット・ノーキ（1992）、混合研究法に関してはクレスウェル（2017）を読みながら、本講義を受講して下さい。各回の講義で紹介される参考図書も積極的に読んでください。</p>	
本科目の関連科目	—	
テキスト	—	
参考文献	<p>野村康，2017，『社会科学の考え方』名古屋大学出版会</p> <p>小熊英二，2022，『基礎からわかる論文の書き方』講談社</p> <p>パンチ，K. F.，2005，『社会調査入門』春秋社</p> <p>リアンプトン，B.，2023，『質的研究法』メディカルサイエンスインターナショナル</p> <p>ボーンシュテット，G. W.，ノーキ，D.，1992，『社会統計学』ハーベスト社</p> <p>クレスウェル，J.，2017『早わかり混合研究法』ナカニシヤ出版</p>	
レポート課題 単位認定方法 と基準	<p>レポート課題は各自の調査と分析の計画です。その内容をみて、評価を行います。</p>	

科目名	福祉社会開発政策・実践論特講	2単位														
担当者	申請に基づく単位認定科目（各専攻において単位認定判定を行う）															
テーマ	福祉社会開発に向けた学際的アプローチを学ぶ															
科目のねらい	<p>&lt;キーワード&gt; 社会的課題、ポジティブ・ウェルフェア、社会保障、社会政策、開発、自立と依存</p> <p>&lt;内容の要約&gt; 複雑・多様化する今日の社会において、単独の学問では解決し得ない社会的課題が生まれている。本科目では、社会的課題の解決に向けた学際的なアプローチを学ぶ。それを踏まえて、自らが専攻する学問の固有性を理解するとともに、他の領域との融合による研究のあり方を考える。</p> <p>&lt;学習目標&gt; 福祉社会開発の視点、価値を自らの研究に活かすことができる。 福祉社会開発研究における多様なアプローチ方法を説明することができる。 社会的課題の解決に向けた研究をデザインすることができる。</p>															
授業の進め方	<table border="1"> <thead> <tr> <th>日程・講師</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>【第1講】 6月14日(日)13:15~16:30 山縣文治先生</td> <td>【講義・演習】子ども虐待への対応と課題</td> </tr> <tr> <td>【第2講】 7月12日(日)13:15~16:30 二木立先生</td> <td>【講義】ファクトで展望する高齢社会日本の医療政策 第1部：国民皆保険制度の現状と改革の論点、今後の見通し 第2部：高市政権の医療・社会保障政策</td> </tr> <tr> <td>【第3講】 9月13日(日)13:15~16:30 宮本太郎先生</td> <td>【講義・演習】セーフティネットの再構築と地域共生社会</td> </tr> <tr> <td>【第4講】 10月4日(日)13:15~16:30 白澤政和先生</td> <td>【講義】AI時代におけるケアマネジメントやソーシャルワーク：超高齢社会を克服する救世主になれるか 【演習】玄関を開けてくれないゴミ屋敷の利用者への関わりを考える：倫理的ジレンマをどう克服するか、どのような方法でアプローチするか</td> </tr> <tr> <td>【第5講】 11月15日(日)13:15~16:30 大橋謙策先生</td> <td>【講義・演習】戦後社会福祉の再検討・転換とコミュニティソーシャルワーク —社会福祉の目的・理念と社会福祉学の性格—</td> </tr> <tr> <td>【第6講】 12月13日(日)13:15~16:30 近藤克則先生</td> <td>【講義】ソーシャル・キャピタル研究25年の歩み 【演習】ソーシャル・キャピタル研究の課題</td> </tr> </tbody> </table> <p>本科目は単位認定申請科目です。 大学院特別公開セミナー※を受講することにより、単位認定申請が可能となります。 ※名古屋キャンパスにて、ハイブリッド形式で開講されます。</p>		日程・講師	内容	【第1講】 6月14日(日)13:15~16:30 山縣文治先生	【講義・演習】子ども虐待への対応と課題	【第2講】 7月12日(日)13:15~16:30 二木立先生	【講義】ファクトで展望する高齢社会日本の医療政策 第1部：国民皆保険制度の現状と改革の論点、今後の見通し 第2部：高市政権の医療・社会保障政策	【第3講】 9月13日(日)13:15~16:30 宮本太郎先生	【講義・演習】セーフティネットの再構築と地域共生社会	【第4講】 10月4日(日)13:15~16:30 白澤政和先生	【講義】AI時代におけるケアマネジメントやソーシャルワーク：超高齢社会を克服する救世主になれるか 【演習】玄関を開けてくれないゴミ屋敷の利用者への関わりを考える：倫理的ジレンマをどう克服するか、どのような方法でアプローチするか	【第5講】 11月15日(日)13:15~16:30 大橋謙策先生	【講義・演習】戦後社会福祉の再検討・転換とコミュニティソーシャルワーク —社会福祉の目的・理念と社会福祉学の性格—	【第6講】 12月13日(日)13:15~16:30 近藤克則先生	【講義】ソーシャル・キャピタル研究25年の歩み 【演習】ソーシャル・キャピタル研究の課題
日程・講師	内容															
【第1講】 6月14日(日)13:15~16:30 山縣文治先生	【講義・演習】子ども虐待への対応と課題															
【第2講】 7月12日(日)13:15~16:30 二木立先生	【講義】ファクトで展望する高齢社会日本の医療政策 第1部：国民皆保険制度の現状と改革の論点、今後の見通し 第2部：高市政権の医療・社会保障政策															
【第3講】 9月13日(日)13:15~16:30 宮本太郎先生	【講義・演習】セーフティネットの再構築と地域共生社会															
【第4講】 10月4日(日)13:15~16:30 白澤政和先生	【講義】AI時代におけるケアマネジメントやソーシャルワーク：超高齢社会を克服する救世主になれるか 【演習】玄関を開けてくれないゴミ屋敷の利用者への関わりを考える：倫理的ジレンマをどう克服するか、どのような方法でアプローチするか															
【第5講】 11月15日(日)13:15~16:30 大橋謙策先生	【講義・演習】戦後社会福祉の再検討・転換とコミュニティソーシャルワーク —社会福祉の目的・理念と社会福祉学の性格—															
【第6講】 12月13日(日)13:15~16:30 近藤克則先生	【講義】ソーシャル・キャピタル研究25年の歩み 【演習】ソーシャル・キャピタル研究の課題															
単位認定申請手順	<p>1. 単位認定申請の手順</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 大学院特別公開セミナーの、参加申込の手続きをおこなう。 申込先...<a href="https://www.n-fukushi.ac.jp/gs/2026/kenkyu/">https://www.n-fukushi.ac.jp/gs/2026/kenkyu/</a> ※本科目は、大学院特別公開セミナーへの参加申込をもって履修登録とします。 <a href="https://www.nfu.jp">nfu.jp</a>上で履修登録をおこなう必要はありません。</li> <li>2) 全6講中5講義以上を受講し、受講後「受講証明書」を受け取る。 ※第1講～第6講の「受講証明書」は、第6講終了後2週間以内に発行します。</li> <li>3) レポート課題の作成。 ※下記「成績評価方法及び基準」欄に示すテーマについてレポートを作成。</li> <li>4) 必要書類（受講証明書・レポート課題）を提出し、単位認定申請をおこなう。 ※単位認定申請の結果は後期成績発表時に通知します。</li> </ol> <p>2. 単位認定の申請期限および申請方法</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 提出書類：受講証明書 + レポート課題</li> <li>2) 提出期限：<b>2027年1月4日(月)～1月15日(金)</b></li> <li>3) 提出方法：窓口提出または <a href="https://www.nfu.jp">nfu.jp</a>「スタディ」内の所定BOXへの提出</li> </ol>															
成績評価方法と基準	<p>大学院特別公開セミナーの受講証明書を提出し、提出したレポートの「合格」判定により単位認定されます。レポートのテーマは、「セミナーを受講し、新たに学んだ点、自身の研究・実践に活かせると思った点」などについて、A4版(40字×40行程度)3頁以内で作成してください。</p>															

## 大学院共通科目

社会福祉学専攻・福祉経営専攻の2025年度以降入学者が履修登録可、2024年度以前入学者は聴講可

科目名	先端老年社会科学講座 (国立長寿医療研究センター連携科目)	1単位
担当者	島田 裕之 (客員教員)、片山 脩 (非常勤教員)、宇田 和晃 (非常勤教員) 下田 隆大 (非常勤教員)、川上 歩花 (非常勤教員)、張 姝 (非常勤教員)	
開講形態	ハイブリッド形式	
テーマ	高齢者や老化の問題を学際的な視点から学ぶ	
科目のねらい	<p>&lt;キーワード&gt; 健康増進、疾病・障害予防、コホート研究、認知症</p> <p>&lt;内容の要約&gt; 老年社会科学は、高齢者や慢性疾患患者の保健・医療・福祉に関する諸問題に対し、医学、心理学、社会学、福祉学、栄養学など様々な学問における理論や方法論を用いて学際的な視点から研究を行う学問である。本講義では、6名の担当者から基礎知識だけでなく、老年社会科学に関する最新の知見を紹介する。</p> <p>&lt;学習目標&gt; 老年社会科学の基礎的な知識と最新の知見を理解し、個々に問題意識や関心を持ち、現在の立場でできる行動計画を立案することができる。</p>	
授業の進め方	第01回 高齢化の疾病・障害予防についての動向 (島田) 第02回 高齢者の認知症予防 (片山) 第03回 高齢者の介護保険サービスをめぐる現状とエビデンス (1) (宇田) 第04回 高齢者の介護保険サービスをめぐる現状とエビデンス (2) (宇田) 第05回 高齢者の身体活動 (下田) 第06回 高齢期の栄養・口腔機能 (川上) 第07回 高齢期の公衆栄養：認知症予防食生活 (張) 第08回 高齢者の内在的能力 (張)	
事前学習の内容・学習上の注意	各回における講義テーマについて事前に文献等を調べて事前学習をすること。	
本科目の関連科目	福祉と疾病、リハビリテーション特論Ⅰ、医療・福祉マネジメント (以上、医療・福祉マネジメント研究科開講科目) 高齢者福祉論特講 (社会福祉学専攻 (通信) 開講科目)	
テキスト	指定なし	
参考文献	指定なし	
成績評価方法と基準	各講義日 (2限分) の小レポート 40点、最終レポート 60点で 100点満点。 総合評価により 60点以上を合格とする。	

## 大学院共通科目

社会福祉学専攻・福祉経営専攻の2025年度以降入学者が履修登録可、2024年度以前入学者は聴講可

科目名	統計解析講座 (国立長寿医療研究センター連携科目)	1単位
担当者	川野 伶緒 (非常勤教員)	
開講形態	対面形式	
テーマ	研究における実践的問題を解決するため、交絡を中心とした因果推論の基礎と統計学的手法を理解し、研究計画およびデータ分析に応用する。	
科目のねらい	<p>&lt;キーワード&gt; 統計学、生物統計学、臨床疫学、多変量解析、研究計画</p> <p>&lt;内容の要約&gt; 本講義では、研究における実践的な問題を解決するための統計学の理論と応用を学ぶ。統計学には膨大な蓄積があり、その実践は多岐にわたるため、本講義ですべてを扱うことはできない。そこで研究を遂行する上で避けて通れない「交絡」を中心に、データ解析の方法論について理解を深める。具体的には、交絡の性質とその影響、交絡の調整方法、回帰分析による解析方法とその解釈を取り上げる。また、これらを習得するため、RおよびRStudioという無料で利用できる統計解析ソフトウェアを用いたサンプルデータによる演習を行う。さらに、統計学の知識はデータ解析だけでなく研究計画段階から求められることから、研究仮説の立て方や適切な研究計画の構築についても紹介する。これらを通じて、実践的な統計的知識を身につけ、自身の研究に活用することを目指す。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 取り組んでいる研究の研究仮説や研究計画を適切に説明できる。</li> <li>2. 交絡を理解し、回帰分析を利用した交絡調整ができる。</li> <li>3. 研究者が知っておくべき統計学に関する知識を正しく理解し、自身の研究に役立てることができる。</li> </ol>	
授業の進め方	<p>第 1 回 研究仮説の立て方／レポート課題 1</p> <p>第 2 回 R および RStudio を用いたデータハンドリングと図表作成</p> <p>第 3 回 因果推論の基礎</p> <p>第 4 回 交絡と DAG の理解／レポート課題 2</p> <p>第 5 回 因果推論のための回帰分析 1</p> <p>第 6 回 因果推論のための回帰分析 2</p> <p>第 7 回 レポートを踏まえた口頭試問と課題の検討</p> <p>第 8 回 レポートを踏まえた口頭試問と課題の検討</p>	
事前学習の内容・学習上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 演習では統計ソフトを使用するため、<u>ノートパソコンの持参は必須である</u>。</li> <li>• 本講義は、大学学部レベルの統計学基礎知識を前提に実践的内容を扱うが、履修制限は設けない。ただし、一部では前提知識を仮定した説明があり、一時的に「そういうもの」と理解してもらった場面がある。講義を最大限に活用したい場合は、<u>参考文献に示した図書による事前学習を推奨する</u>。</li> <li>• 事前学習としては、まず『<u>基礎医学統計学</u>』が適している。医学部学生向けに平易に書かれており、最低限の知識を広く把握できるため、本講義の準備としては十分である。より深く学びたい場合は『基礎統計学Ⅰ 統計学入門』を参照するとよい。</li> <li>• R および RStudio の事前学習には、ウェブ資料が有用である。まずは『私たちの R (<a href="https://www.jaysong.net/RBook/">https://www.jaysong.net/RBook/</a>)』(可視化の章まで)の利用を推奨する。さらに学びたい場合は『疫学のための R ハンドブック (<a href="https://epirhandbook.com/jp/index.jp.html">https://epirhandbook.com/jp/index.jp.html</a>)』(単変量・多変量回帰まで)が参考になる。</li> </ul>	
本科目の関連科目	研究方法概論Ⅰ(大学院共通科目)、研究方法概論Ⅱ(大学院共通科目)	
テキスト	指定なし	
参考文献	<p>基礎医学統計学 改訂第7版. 南江堂. (ISBN: 978-4-524-24149-1)</p> <p>基礎統計学Ⅰ 統計学入門. 東京大学出版会 (ISBN: 978-4-13-042065-5)</p>	
成績評価方法と基準	成績評価は、レポート課題1および2の内容(各30点)と、それらを踏まえた口頭試問(40点)を合算した総合点によって行う。口頭試問では、提出済みレポートを基盤として、研究目的や因果構造など研究計画に関わる主要な論点について対話形式で検討する。評価は、計画の妥当性や論理性に加え、質疑応答を通じた改善の姿勢を含めて総合的に判断する。なお、口頭試問は単なる試験ではなく、研究計画を磨くための対話の場として位置づける。	

## 研究指導科目「医療福祉経営特別研究」 担当教員

### 【領域】 医療福祉経営研究 (担当者：遠藤 秀紀、橋口 徹、李 忻)

高齢社会の到来と政府の行財政改革は、医療福祉経営の合理的かつ効率的な改革を求めている。医療福祉経営は、医療福祉の特性、医療福祉専門職と専門職組織の特性、医療福祉制度や政策の特性を踏まえて新たな理論構築をはかる必要がある。今や介護や在宅サービス領域への市場拡大は多様なプロバイダーの参入を可能にしている。これら外部経営環境の変化とサービスの多様化や市場の変化を踏まえて、サービスを提供する専門職・サービス提供組織とサービスの消費者の架橋となるような経営理論の確立と実践のための方法について研究指導を行う。

担当者	遠藤 秀紀
テーマ	介護施設・事業所経営に関する計量分析
概要	<p>介護保険制度の実施以後、介護施設・事業所サービスは徐々に多様化し、利用者の利便性の向上が期待される。一方で、介護施設等の廃止件数が近年増加傾向を示すなど、経営上の課題を抱えている施設等は少なくない。その要因として、たとえば増加する高齢者に対する現場の介護者等の人員不足が指摘され、介護報酬の増加や入職後3年未満が過半数を占める早期離職への対応が急務とされる。</p> <p>このような課題に対して望ましい対策を検討するには、制度面の理解に加えて適切なデータを用いた科学的根拠の検証が欠かせない。本研究指導では、施設等の経営に影響する要素の抽出及びデータ選択、それを用いた計量分析の実施方法などを指導する。</p>

担当者	橋口 徹
テーマ	社会科学的分析視角による医療福祉マネジメント研究（会計情報の活用を中心に）
概要	<p>現在、国内において病院等への診療報酬の支払い方式としてDPC/PDPS（診断群別包括支払い制度）が導入される等のみならず、国外においても我が国の病院が海外に進出する等、医療現場内外で様々な環境変化が生じており、我が国の医療機関は、そのマネジメントにおいて、当該経営組織及びそれが提供するサービスの質ともに大きなパラダイム転換を迫られている。そこで本研究指導においては、医療安全や税制からのインパクトを含め、我が国の医療機関の経営行動に係る分析について、会計情報を初めとする様々な情報の活用等を行いつつ、会計学や経営学等の社会科学的視座から研究指導を行う。</p>

担当者	李 忻
テーマ	医療組織の経営を支えるための医療保険制度・政策研究
概要	<p>21世紀の初頭に日本は世界一の超高齢社会となった。それに伴い、国民医療費は増加の一途を辿りながら、医療機関を取り巻く経営環境はより一層困難に直面している。人口構造の変化や疾病構造の変化が医療機関の経営に大きな影響を及ぼしているだけでなく、保険医療機関の収入のほとんどは診療報酬によるものであるために、医療保険制度・政策の枠組みの中で医療機関を経営していかなければならない。そこで、本研究指導は、診療報酬制度改正による医療機関の経営に与える影響についての研究や各医療保険制度に関するデータ分析による研究等を行う予定である。</p>

**【領域】 総合経営研究**（担当者：新谷 司、中野 諭、柳 在相）

経済、産業、経営、会計、情報などのあらゆる分野のグローバル化が進行するも、営利企業においては革新的な経営手法が採用される一方、国際協調、資源・環境保全、社会貢献への積極的対応などの社会的要請が高まっている。他方、医療・福祉分野においては、介護保険制度下での民間企業の参入に伴う競争の激化、あるいは、公的医療費抑制政策下での一部医療機関経営の行き詰まり等に見られるように、サービスの質を担保しつつ、効率性を追求する経営が強く求められるに至っている。このような営利および非営利双方の領域における経営環境の変化を念頭に置きつつ、従来にも増して求められている社会貢献あるいは福祉追求型の経営革新の展開とそれに対応する会計的管理システムのあり方について、従来のマネジメントと会計の理論をベースとしつつ、新たな総合的發展に必要な視点に立ち、研究指導を行う。

担当者	新谷 司
テーマ	非営利事業（医療福祉事業含む）の財務会計・経営分析
概要	営利・非営利の組織では、複数の組織で共通する会計ルール・計算方法と組織固有の会計ルール・計算方法がある。複数の組織で共通する会計ルールとは、通常所轄官庁ごとに設定されている会計基準である。一定の公表制度または閲覧制度の下で、この会計基準を適用した計算書類が公表され、閲覧されている。公表または閲覧される計算書類は、制度会計または財務会計という研究領域に含まれる。制度会計または財務会計領域における会計基準の理論的分析だけでなく、会計基準形成を規定する政治経済的要因または社会的要因の分析や会計基準形成が政治経済または社会に与える影響の分析に対しても研究指導を行う。経営分析領域では異なる会計基準に応じた経営分析の諸方法と実際の計算書類等を利用した経営分析の実践について指導を行う。

担当者	中野 諭
テーマ	営利・非営利組織の労働需給分析
概要	国際競争の激化、技術革新の進展、あるいは一部の国では人口減少の進行というように、営利・非営利を問わず組織をとりまく経済社会の環境は目覚ましく変化している。このような状況において、組織が人材を有効活用し、生産性を高めるためには、労働供給や労働需要を具に分析し、ジョブ・マッチングの質と効率を改善することが重要である。労働経済学の諸理論は、こうした労働市場の動向を分析するツールとして有益である。本研究指導では、ジョブ・サーチやマッチングなどの経済理論の理解と統計データを用いた実証分析の実行について指導を行う。

担当者	柳 在相
テーマ	非営利組織の経営とイノベーション
概要	昨今の厳しい競争環境が展開される中、いかなる形態の組織であろうが、その存続を図っていくためには、経営戦略を必要とされている。IT革命や国際化の進展、技術革新のスピードアップなどによる競争激化時代に適応していくための経営戦略および組織、マネジメントシステムのあり方についての研究指導を行う。民間企業の経営戦略をベースとしながら、医療機関をはじめ介護や福祉施設、JA等「非営利組織の経営とイノベーション」に着目する。